

長田下地域 振興会だより 第12号

2010年(平成22年)3月30日発行

牛歩の第一歩 ……新米会長1年後のつづき

教職に身を置いていた頃から私が属している会に、「牛歩会」と「四六の会」という一見相容れない二つのものがあります。「牛歩」のほうは、功を焦らず足元を固めながら、一步一步じっくりと目標をめざすというものです。一方、「四六」は、四六時中一意専心一気に目標完遂へと突き進むというものです。

この地域に振興会が誕生して6年が経過しました。設立当初は「振興会」というよりは「新興会」的状态で、現在の諸活動の基を築くには、強力な指導力と実践力が必要でした。初代会長さんを推進力の核として先輩諸兄弟は、まさに「四六」の精神を發揮して実績をあげられました。

1年前、その先達たちの多くの財産を引き継いで2代目会長職を私が担うこととなりました。振興会も設立以来5年を経過して、活動分野も広がり多くのものが住民意識への定着を見せていました。そうした中で、一定の前進はめざしつつも、足元にある既存の事業、活動等を見直し、継続、発展させる時期に入っていると私は思いました。手元にあるこの1年間の日録には膨大な数の活動が記入されていますが、その中に目新しいことはほとんどありません。まさに「牛歩」の第一歩という1年でした。

ただし、活動がマンネリ化して前年度のもの VTR を見るようなものにはならないよう、小さな新機軸は加えるように、他の役員たちとともに腐心してきたつもりです。行事等に参加されたみなさまにはどう映っているでしょうか。

今はちょうど役員改選期でとてもものが言いにくい時期ですが、私が続投すると仮定して言えば、次年度は「牛歩」の精神に「四六」の片鱗を加味して、人と人とのつながりがより深化するような「第二歩目」にしたいと思っています。

地域のみなさまには今後も倍旧のご協力、ご参画をよろしく願いいたします。



3/7 人間ホール

昨年、インフルエンザで延期になった第21回人間ホールが、甲田文化センターミュージアムにて、約350人余りの沢山の参加をいただき開催されました。

あいにくの曇り空、肌寒い日でしたが、参加の皆さん・スタッフの方々の熱気に包まれ、にぎやかなお祭りになりました。

ホールでは、映画の上映とザ・私たちのコンサート、野外では、本日のメインイベント「安芸高田市B級グルメ決定戦」があり、地域8団体が自慢の腕を競い、沢山の皆さんに食べていただきました。投票と審査の結果、優勝は吉田町から参加した貴船ハウスの「ウコン入りカレー」にさらわれ、六風会の「シャキシャキ水菜焼きそば」は、残念ながら3位？ 審査員も全食味わうのも大変だったと思います。



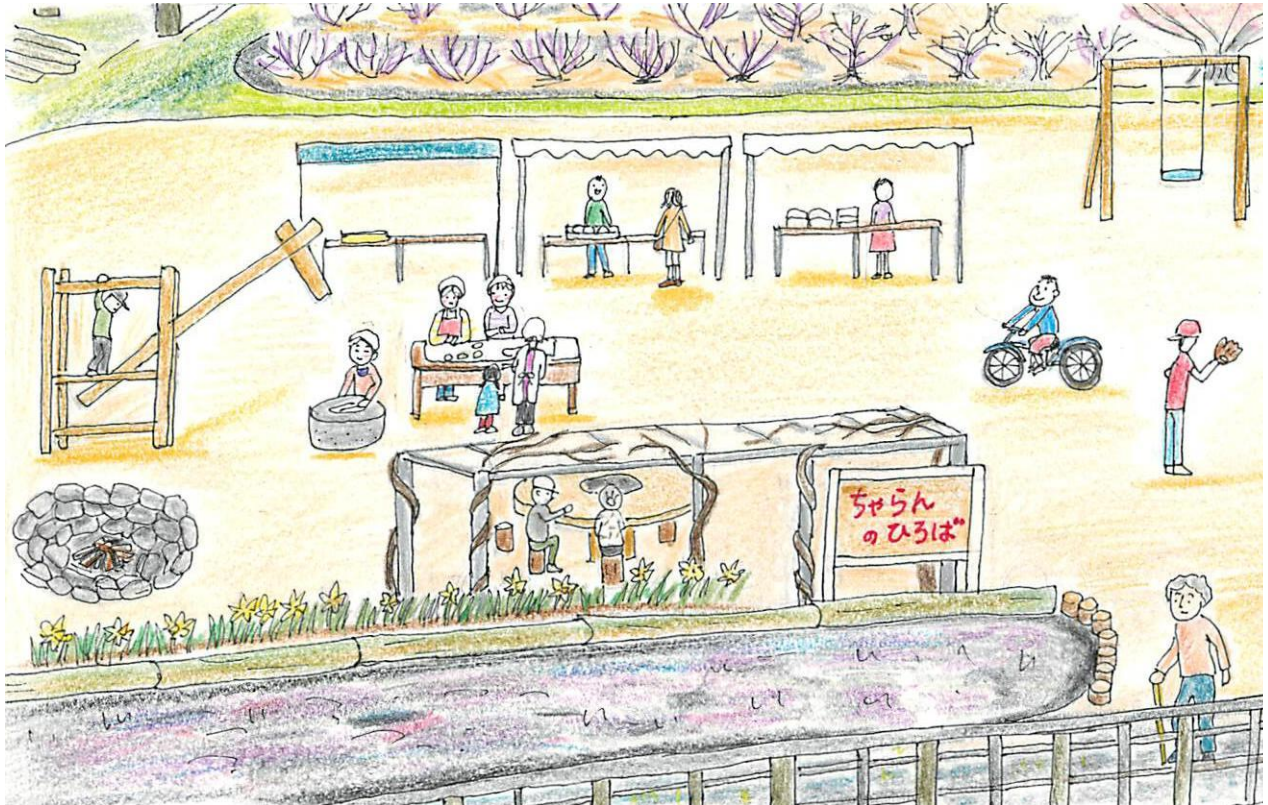
3/14 ふれあい発表会

中長田集会所において約120名の方が参加され、多数の展示物あり、詩吟・カラオケ発表あり、さらには30年前の「明るいまちづくり活動」のビデオ上映では、懐かしい人がスクリーンに登場し大変な盛り上がりでした。

コーヒー・紅茶の接待、威儀を正して(?)抹茶をたのしみ、さらにはひととさんによるうどん、それに女性役員による炊き込みごはんのごちそうに舌鼓を打ち、午後からはふれあい部会の準備したゲームにみんなで参加し、楽しく過ごしました。

各方面の皆様のご協力に感謝いたします。





「ちやらのひろば」に夢を拡げよう

縄文の池付近が地域の風景として馴染み、ひとは館に立ち寄った人たちや行きかう人たちにも憩いの場として定着してきました。長田下地域自治振興会の地域力のたまものです。

しかし、せっかくの風景を地域全体で楽しむには、何か足りないと思っていました。それは縄文の池を掃除したり整備したりしながら、みんなの口に上るようになり「あったらいいね。」を「形にしようよ。」とふくらみ始めました。

そんな中で、ひとはさんが管理している湿田を多目的な広場として活用しようという夢が徐々に固まり、農園と合わせてくつろぎ空間の実現を目指すことになりました。幸いにも安芸高田市社会福祉協議会も一肌脱いでくれ、振興会、ひとは、社協の協働事業として取り組むことになりました。社協がこんな企画に積極的に参加してくれることは、みんなの地域づくりを進めていく上でも大きな励みになります。

「じっちゃん、ぼっちゃん、キミとぼく、みんなが輝く地域なのさ」児玉さんの挿絵にあるように、誰でもが参加できる空間作りをすすめて行きたいと思います。

ぜひ皆さんのお知恵を拝借。

お願い

縄文の池にどうしてかメダカが少なくなりました。もし御家庭に増えすぎたメダカがいましたら、分けていただけませんか。

「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える③

下長田には、古い歴史を誇るお寺が2つあります。昔から仏の教えを広め、人々の心にやすらぎを与えてきました。

その中の1つに眞徳寺さんのお庭に、下の写真のような阿弥陀如来像（ほとけさん）が安置されています。昔から「おおほとけさん」といって親しまれ拜まれてきました。

この仏像は、鎌倉時代より前に造られた桧木造りで、当時はお顔は金色で、衣はすてきな模様が色づけされていたようです。高さ約140cm、蓮台（はすの葉の台）の高さは約60cmあります。この仏さんは、尼子三兄弟ゆかりの円明寺（延命寺とも言う）のご本尊であったとも伝えられています。今日まで、よく保存されたものだと感心させられます。

また、もう一つの写真は、僧侶の殉教の石碑です。殉教というと、多くはキリスト教やイスラム教などにかかわって使われることが多いようですが、日本のしかも、尼子氏や眞徳寺さん（14代住職貫丈の次男）の縁にある「無涯法師」という方の顕彰碑です。火上さんの隣りの旧眞徳寺境内にあります。

無涯さんは、江戸時代末に、本願寺から仏教を広めようと命令を受け、念仏を厳しく禁止していた薩摩藩（今の鹿児島県）にひそかに入り、住民に仏の教えを広めていました。年齢は30歳すぎの心身ともに優れた僧で、住民に人気があったそうです。ところが、密告者のために、薩摩の役人の知るところとなり、本願寺や地元の寺・住民に迷惑がかかるのを避け、自害されました。その徳を称えた碑です。

このように、わたしたち住民が忘れかけている有形無形の文化財が、下長田にはまだ多く隠されていると思います。

ご意見や情報を自治振興会事務局にお寄せ下さい。



眞徳寺 阿弥陀如来像



無涯法師 顕彰碑